

Hello! FUJISEI

No. 175

超高齢社会への進行、さらに加速

65歳以上が25.0% 4人に1人が高齢者

総務省統計局は、毎年「敬老の日」を迎えるに当たって、「統計からみた我が国の高齢者のすがた」について取りまとめています。

それによると、65歳以上の高齢者人口（平成25年9月15日現在推計）は、3,186万人で、総人口に占める割合は25.0%となっています。前年（3,074万人、24.1%）と比べると、112万人、0.9ポイント増と大きく増加し、人口、割合ともに過去最高となっています。これはいわゆる「団

塊の世代」と呼ばれる人のうち昭和23年生まれが新たに65歳に達したことによると思われます。

男女別では、男性は1,369万人（男性人口の22.1%）、女性は1,818万人（女性人口の27.8%）と、女性が男性より449万人多くなっています。

年齢階級別にみると、70歳以上人口は2,317万人（総人口の18.2%）で、前年に比べ61万人、0.5ポイント増、75歳以上人口は1,560万人（同12.3%）で、43万人、0.4ポイント増、80歳以上人口は930万人（同

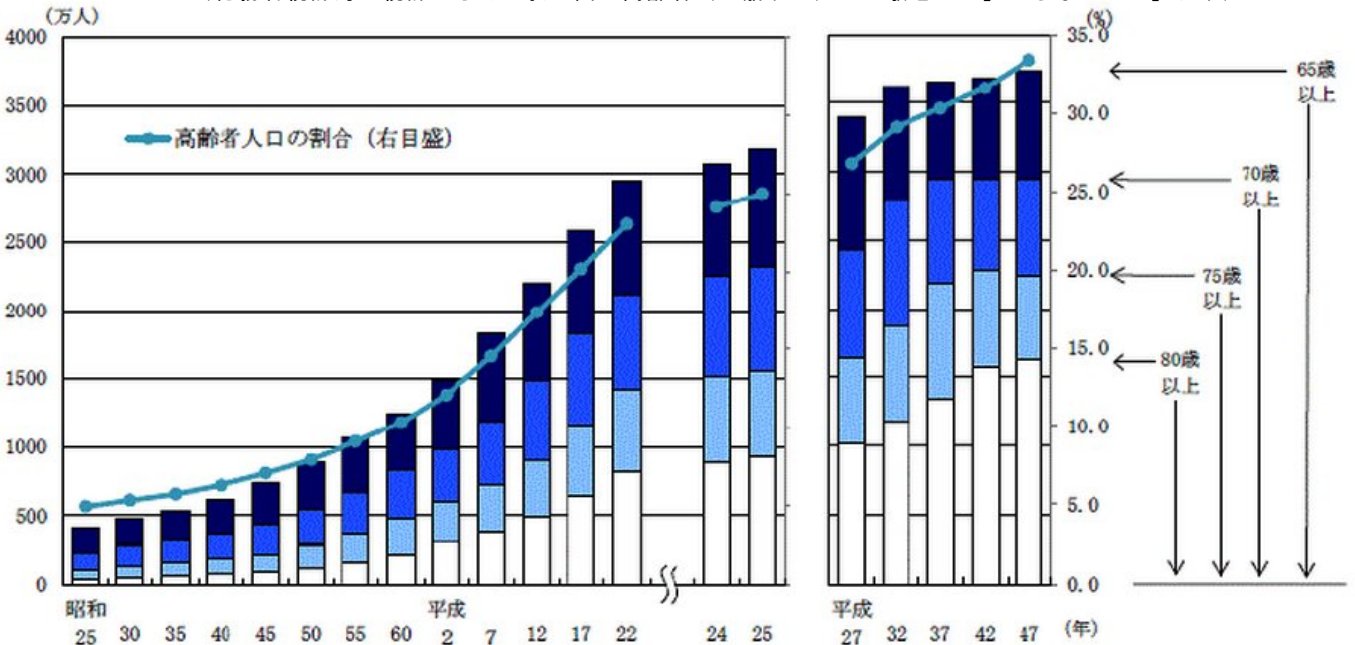
7.3%）で、38万人、0.3ポイント増となっています。

65歳以上人口の総人口に占める割合は、昭和60年に10%を超え、20年後の平成17年には20%を超え、その8年後の平成25年に25.0%となり、初めて4人に1人が高齢者となりました。

国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、この割合は今後も上昇を続け、平成47年には33.4%となり、3人に1人が高齢者になると見込まれています。

高齢者人口および割合の推移

（総務省統計局「統計からみた我が国の高齢者（65歳以上）－「敬老の日」にちなんで－」より）



（注）昭和25年～平成22年は「国勢調査」（10月1日現在）、平成24年および25年は「人口推計」（9月15日現在）。平成27年以降は「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」（国立社会保障・人口問題研究所）から。